

多言語（通訳つき）高校進学ガイダンス（説明会と教育相談）

報告者：市民国際プラザ 田月 千尋

10月24日、東京都大田区役所で「多言語高校進学ガイダンス」が実施されました。この事業は「東京都進路ガイダンス南部実行委員会」が主催しています。構成メンバーは、大田区で在住外国人の生活・労働相談や日本語教室の開催等を行う「OCN e t」（外国人とともに生きる大田市民ネットワーク：Ohta Citizens' Network for Peoples' Togetherness）、品川区を活動拠点とし、外国からの子どもたちへ学校生活や高校入試に必要な日本語や学科を教える活動などを行う「NPO法人 IWC 国際市民の会」（IWC=Interact With Community）、外国にルーツをもつ子どもたちへの教育支援を学生が主体になって行っている「CCS世界の子どもと手をつなぐ学生の会」（CCS=Club of Children and Students）、そして異なる文化を背景にもつ子どもたちが、共に生きることができると多文化共生社会についての教育と研究を進める活動に取り組む「多文化共生教育研究会」です。市民団体と高校の教員の方々が協力して、このガイダンスが実施されました。



教員の説明を熱心に聞く参加者

参加者は、日本の高校に進学したいと考えている（来年の4月に入学するのが目標）日本語を母語としない親子です。当日は47人の親子が参加をしていました。出身国は、中国・フィリピンなど、8か国にわたります。そのため、主催者は、英語、中国語、タガログ語、タイ語、ベトナム語などの通訳を用意していました。

会場では参加者に「中学を卒業したら、どこで、何をしましょう？」という多言語で作成された進路ガイドブックが配布され、それをもとに高校の先生や市民団体から日本の教育システムについて、また都立高校や私立高校など、それぞれの高校でかかる費用や入学試験の仕組みなどについて説明が行われました。参加者は真剣な眼差しで説明を聞いていました。入学試験の説明の中では教員の方々が教師役、生徒役になって実際の面接を再現する場面もあり、その後教員の方からは「面接では、日本語がうまく話せないからといって不安に思うことはありません。入学したいという気持ち、そして他の言語が話せるということ PR するなどして、自信をもって臨んでください」とのアドバイスがありました。

またこのガイダンス中で、中国から日本に来て高校受験をし、見事合格して高校に進学した IWC の学生からの体験談を聞くことができました。2 名の高校生が自らの受験体験を話していたのですが、とても流暢な日本語を使うことに大変驚きを感じました。参加者の子どもたちも驚いたようで、「日本に来る前から日本語を勉強していましたか?」「授業で分からないところがあった時は、どうしましたか?」といった質問がたくさん寄せられていました。

また、最後には、高校の教員や日本語学習支援を行っている団体のスタッフと参加者が、自由に個別の相談を受けることができる教育相談の時間が設けられ、熱心に話を聞いていました。

【終わりに】

東京の外国人登録者数は、平成 22 年 1 月 1 日現在で 418,116 人です（東京都総務局 HP より）。また、都内で公立の中学校に在籍している外国籍生徒は 2,870 人います（東京都教育委員会 HP より）。日本語を母語としない子どもたちは、言葉の問題などで高校に進学することを諦めてしまうケースがよくあるそうですが、今回このガイダンスを見学させていただいて、そんな子どもたちのために高校の教員や複数の市民団体、通訳の方が一丸となり、協力している姿が非常に印象に残りました。一人の学生をサポートするのに、学校・市民団体など、様々なつながりが必要となってきます。さらにこれからは学校や市民団体だけでなく、地域の人々も手を取り合い支えあって共に生きていく社会を目指すことが大切だと思います。私が参加したのは東京都の南部地域でのガイダンスでしたが、八王子などでも同ガイダンスを行ったそうです。

日本における外国人への日本語支援は、決して十分だとは思えません。小学校からドロップアウトしてしまう子どもも多くいます。しかし、このガイダンスに参加した子どもたちのように、日本の高校に進学しようと一生懸命努力している生徒たちもたくさんいることを実感しました。今後、日本が本当の意味での多文化社会を目指すなら、このような生徒たちこそ大切に育てていく必要があるのではないのでしょうか。この会に参加した生徒の皆さんが、来年の 4 月にそれぞれの希望する高校の門をくぐっていることを願います。